

～ 白露 ～ 秋の気配

9月上旬の二十四節気は白露（はくろ）です。

草や木々の葉に朝露がつき始め、秋の気配が感じられる季節に入ります。

露は、夜間の放射冷却で空気中の水蒸気が凝結し水滴となり、植物の葉や建物の外壁などについたものですが、特に夏の終わりから秋の早朝に多く見られます。

冬は水蒸気が昇華して氷になるので霜になります。

放射冷却とは、秋から冬、春先までのよく晴れた風の弱い夜間に、地表面から熱が放射され、地上付近の空気が冷やされる現象です。

そして水蒸気を含む空気が露点以下まで下がり水滴や氷となります。

ところで、『露』で思い出す有名な和歌に、百人一首の

『秋の田の かりほの庵の 苦（とま）をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ』があります。

秋の静寂美と、天智天皇が農民を思う優しい歌とされています。

現代語訳では、『秋の田の側につくった仮小屋に泊ってみると、屋根をふいた苦（スゲやアシなどで編んだムシロ）の編み目が粗いので、その隙間から忍びこむ冷たい夜露が、私の着物の袖をすっかりと濡らしてしまっているなあ』となります。

冷たい夜露＝放射冷却が起きたのですから、きっとその日は、晴れ渡った刈り入れ日和だったことでしょう。

（次回号は～霜降～）

